



宮城学習センター



群馬学習センター



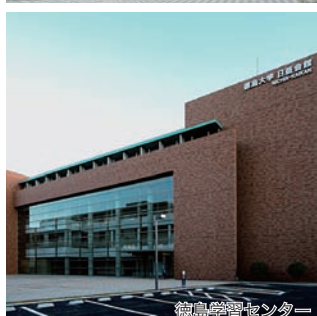
東京多摩学習センター



愛知学習センター



大阪学習センター



徳島学習センター



沖縄学習センター

放送大学 アニュアルレビュー 2011

The Open University of Japan Annual Review 2011



2011年度学位記授与式

2012年3月24日(土) 東京・渋谷NHKホールにおいて、2011年度の学位記授与式を挙行了。2010年度の学位記授与式は、東日本大震災発生の影響により中止したため、2010年度の卒業生及び修了生も今年度の学位記授与式に出席し約2,000名を超える人が出席した。

学歌演奏・岡部洋一学長式辞・平野博文文部科学大臣、稲田修一総務省大臣官房審議官ならびに小野鐵雄放送大学同窓会連合会会長からの祝辞に続き、学部卒業生代表高橋昭善さん(自然の理解専攻)と大学院修了生代表安達美帆子さん(文化科学研究科人間発達科学プログラム専攻)の答辞があった。その後2010年度(15名)、2011年度(19名)の合計34名に対し『放送大学名誉学生』として学長表彰が行われた。

2011年度の学部卒業生は4,544名で、大学院修了生は380名であった。



下段左より2人目の平野文部科学大臣を挟んで右:高橋昭善さん、左:安達美帆子さん

CONTENTS

学長挨拶 ■ 2	より質の高い教育を目指して ■ 19
東日本大震災への対応 ■ 3	新しい学びを創造する ■ 22
充実した教育内容 ■ 5	学習センターの活動、この一年 ■ 25
放送大学における研究 ■ 11	放送大学の新たな動き ■ 31
世界に羽ばたく放送大学 ■ 15	データでみる放送大学の概要 ■ 33
社会への貢献 ■ 17	

【編集】

■放送大学アニュアルレビュー2011タスクグループ

副学長 二宮 皓

社会と産業 高木 保興 (主査)

生活と福祉 井出 訓

心理と教育 佐藤 仁美

人間と文化 宮本 徹

自然と環境 米谷 民明

ICT活用・

遠隔教育センター 広瀬 洋子

■総務部広報課

「放送大学アニュアルレビュー2011」は、2011年1月～2012年3月の放送大学の活動を記録したものです。

4年目のAnnual Reviewの公刊によせて



2012年5月

学 長

岡部 洋一

2011年のAnnual Reviewを送る。私が2011年5月に学長となって最初のAnnual Reviewである。

創刊は2008年版であり、今回で4回目となる。Annual Review は、この一年間の放送大学の成果をまとめたもので、教育、研究、国際といった活動の俯瞰、この一年間に起きた主なエポックの紹介といった記録的意味を持っている。それに加え、さらに、放送授業、面接授業、学習センター、図書館、ICT活用・遠隔教育センターの活動、学位授与式などの放送大学の主要な行事の紹介もなされている。

2011年度は放送大学学園が設置されて30周年という節目の年でもある。くしくも、まず7月に東日本大震災の被災エリアを除き地上テレビのデジタル化が完了し、関東地方では2006年より開始した放送大学の地上デジタル放送12chも定着してきた。さらに10月にはBS放送のチャンネル拡大がスタートし、その際、放送大学はBSチャンネルを取得することができた。この結果、放送大学は関東のみならず、全国的にもよく知られるようになったのである。

さらに、放送に加え、インターネット利用も活発に

なった。私の学長就任の1ヶ月前の2011年4月に就任の白井理事長は、前任校では長い間、ICT活用支援を指揮してきた。私も前任校から引き続き、放送大学でも同様な活動をしてきた。そういう意味で、この30周年は、放送の補助的手段とはいいいながらも、インターネット化に関する節目の年でもある。

実際、放送教材のインターネット配信、通信指導問題のWebによる提出など、大きな進展が得られている。また、一般大学に比べ比較的高齢な学生の多い放送大学の事情を鑑み、情報のリテラシー教育も、全国の学習センターで行なうなど、学生側の情報化も進捗している。

また全国に展開している学習センターにおいても4月には山口学習センターが山口大学構内に、9月には東京文京学習センターが旧来の場所である茗荷谷の新校舎に移転。そして2012年4月には初めての“都市型キャンパス”として期待される東京渋谷学習センターが開所した。

こうしたいくつかの変化も行間から読み取っていただけることを期待したい。

東日本大震災への対応

2011年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.0、最大震度7という日本観測史上最大級の地震が東北地方を襲い、東北地方と関東地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらした。放送大学の学習センター・サテライトスペースも東北・関東を中心に多大な被害を受けた。

■放送大学の被害状況

東北地区（八戸、岩手、宮城、秋田、山形、福島、いわき）、関東地区（茨城、栃木、千葉、東京文京、東京足立、東京多摩）の学習センター・サテライトスペースでは、書棚の倒壊、

図書散乱、一部壁の剥落、停電などの被害があったが、建物の倒壊などはなかった。



千葉学習センターエントランス



附属図書館内部

■放送大学生 全国8万人の絆

震災直後から被災地向けの義援金の募集を決定し、その後本学園関係者向け義援金「東日本大震災まなびー募金」を募集、被災しながらも学習しようという意志の強い仲間達に奨学金または見舞金として支援した。

また全国各地の学習センターから続々と、支援物資や応援メッセージが被災した学習センターに届けられた。



石前学長と日本赤十字社千葉県支部秋山事務局長

■被災学生に対する修学支援

放送大学は東日本大震災で被災した学生及び、この地震による原子力発電所の事故で被災した学生で、経済的な理由により修学に著しい困難を生じた在学生及び入学者に対して、入学料や授業料その他費用の免除措置や印刷教材を紛失された学生に無償給付するなどの支援策を講じた。

また、震災直後より学生サポートセンターに被災地専用フリーダイヤルを開設し、修学を続ける上での問題や不安について、一日当たり10数件から50数件の相談を受け付けた。

■今後の防災に向けた大学の研究・活動

放送大学では東日本大震災以前より、大地震及び大津波に対する防災・減災のための授業科目や公開講座などで地域防災支援を行ってきた。

東日本大震災後は、震災から学んだ教訓を研究・教育活動に生かし、政府や地域の災害対策委員としての貢献や、公開講座の開催など様々な地域防災を支援する活動にも精力的に力を注いでいる。

委員 岩手県東日本大震災津波復興委員会専門委員 小川 正人教授
 文部科学省 科学技術審議会 安全・安心科学技術委員会委員 奈良 由美子教授
 岩手県東日本大震災津波復興委員会総合企画専門委員会委員長 齋藤 徳美岩手学習センター所長

公開講座 ～東日本大震災生活支援のための～放射線を知る講演会 …………… 山 形学習センター
 M9.0地震の発生と、これからの地震動向…………… 埼 玉学習センター
 科学者によるやさしい解説・討論～原発、放射線と私たちの暮らし～…… 東京世田谷学習センター
 報道と危機管理 ―東日本大震災と風評被害― …………… 石 川学習センター
 ―長野県の地震活動を考える― …………… 長 野学習センター
 東日本大震災と世界システムのゆくえ…………… 大 阪学習センター
 東日本大震災から私たちに必要な教訓とは？…………… 和 歌山学習センター
 「東日本大震災を考える」～③「東日本大震災」から何を学ぶか～…… 鳥 取学習センター
 原子力災害を考える～福島第一原子力発電所で起こっていること～ …… 岡 山学習センター
 東日本大震災復興のための海の観点からの政策提言 …………… 岡 山学習センター
 四国の地震環境…………… 愛 媛学習センター
 東日本大震災から学ぶべきこと…………… 福 岡学習センター
 東日本大震災後の日本と世界の経済状況 …………… 佐 賀学習センター

広報誌「ON AIR」 2011.9発行号 教授対談「“知識の防災”ではなく“姿勢の防災”を」

群馬大学大学院教授 片田 敏孝
 岩手学習センター所長 齋藤 徳美
 放送大学教授 奈良 由美子

2011.12発行号 Voice Of Student「被災地域で学ぶ仲間たち」



「ON AIR」103号

告知番組「大学の窓」 4月8日～ 「東日本大震災への対応」

- ・岩手、宮城、福島の被災状況を地図、写真で伝える
- ・岩手学習センター 齋藤所長にインタビュー
 (パソコンで学習センターと中継)

- ・学費納入期限の延長、印刷教材の無償配布
 のお知らせ

- ・義援金の受付について

以降、10月まで震災関連で7本の番組を放送。



大学の窓 (八戸サテライトスペース)



大学の窓 (岩手学習センター)

特別講義 「阪神・淡路大震災と東日本大震災」 林 敏彦客員教授

「原発事故と農業～それでも農民は種を播いた」中島 紀一茨城大学教授 (ラジオ 2012年度放送予定)

充実した教育内容

テレビ・ラジオによる授業

放送授業

放送授業は、面接授業と並び放送大学教育の中心に位置づけられている。2011年度第2学期（2011年10月～2012年3月）には、学部257科目、大学院68科目の合計325科目を開講した。放送授業は、原則として4年間（毎年2学期間ずつ、合計8学期間）放送するため、全開講科目のおよそ4分の1ずつが、毎年入れ替わる。

2011年度の新規開設科目は、学部54科目（テレビ32科目、ラジオ22科目）、大学院16科目（テレビ4科目、ラジオ12科目）の合計70科目である。

■ 2011年度全開講科目数

	第1学期		第2学期	
	テレビ科目	ラジオ科目	テレビ科目	ラジオ科目
学 部	136	120	137	120
	256		257	
大学院	30	37	30	38
	67		68	
合 計	166	157	167	158
	323		325	

■ 2011年度新規開設科目一覧(学部)(TV=テレビ、R=ラジオ)

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア	
基礎科目	基礎科目		健康と社会（'11）	R	
			市民と社会を考えるために（'11）	R	
			日本語からたどる文化（'11）	TV	
			世界の名作を読む（'11）	R	
			科学的探究の方法（'11）	TV	
共通科目	一般科目	人文系	言葉と発想（'11）	R	
			博物館概論（'11）	TV	
			教育と社会（'11）	TV	
			教育入門（'11）—文献で読み解く教育の社会的基盤	R	
			発達心理学概論（'11）	R	
		社会系	現代の生活問題（'11）	R	
			技術経営の考え方（'11）	R	
			疾病の成立と回復促進（'11）	TV	
		自然系	基礎化学（'11）	TV	
			物理の世界（'11）	TV	
	外国語	ドイツ語	ドイツ語入門Ⅰ（'11）	TV	
			ドイツ語入門Ⅱ（'11）	R	
		英語	英語圏の言語と文化（'11）	R	
			初歩のアラビア語（'11）	TV	
専門科目	生活と福祉	健康	在宅看護論（'11）	TV	
			今日のメンタルヘルス（'11）	R	
			循環器病の健康科学（'11）	TV	
		生活	ものとして、心としての衣服（'11）	R	
			人口減少社会のライフスタイル（'11）	TV	
		福祉	高齢者の生活保障（'11）	TV	
			欧米の社会福祉の歴史と展望（'11）	TV	
			子どもの生活と児童福祉（'11）	R	
		心理と教育	教育	児童・生徒指導の理論と実践（'11）	TV
				乳幼児の保育と教育（'11）—子どもの最善の利益を求めて	R
	子ども・若者の文化と教育（'11）			R	
	特別支援教育基礎論（'11）			R	
	特別支援教育総論（'11）			R	
	心理		心理統計法（'11）	TV	
			比較行動学（'11）—ヒト観の再構築	R	
	社会と産業	産業・経営	NPOマネジメント（'11）	R	
			グローバル化と日本のものづくり（'11）	TV	
社会技術		物質・材料工学と社会（'11）	TV		

大区分	中区分	小区分	科目名称	メディア
	人間と文化	法律・政治	企業・消費者・政府と法('11) 一消費生活と法	R
			現代日本の政治('11)	TV
		哲学・芸術	グローバリゼーションの人類学('11) 一争いと和解の諸相	TV
			舞台芸術への招待('11)	TV
			現代哲学への挑戦('11)	R
	自然と環境	歴史・地域文化	日本古代中世史('11)	TV
			イスラーム世界の歴史的展開('11)	TV
		宇宙・地球	進化する宇宙('11)	TV
			微分方程式への誘い('11)	TV
			生命・生態	TV
総合科目	総合科目		格差社会と新自由主義('11)	TV
			進化する情報社会('11)	TV
			消費者と証券投資('11)	TV
			エネルギーと社会('11)	TV
			観光の新しい潮流と地域('11)	TV

■ 2011年度新規開設科目一覧(大学院)

プログラム名	科目名称	メディア
生活健康科学	発達運動論('11)	R
	生活リスクマネジメント('11)	R
人間発達科学	生涯発達心理学研究('11)	R
	教育文化論特論('11)	TV
	現代教育改革論('11) 一世界の動向と日本のゆくえ	R
	道徳性形成・徳育論('11)	R
臨床心理学	発達心理学特論('11)	TV
	現代社会心理学特論('11)	R
	臨床心理学特論('11)	R
	臨床心理地域援助特論('11)	R
社会経営科学	地域の発展と産業('11)	R
	行政裁量論('11)	R
	20世紀中国政治史研究('11)	R
文化情報学	21世紀メディア論('11)	TV
	国語国文学研究の成立('11)	R
自然環境科学	現代地球科学('11)	TV

特別講義

特別講義では、各学問分野の第一人者が、その学問について深く掘り下げて講義を行っている。2011年度は新規開設24講義（テレビ14講義、ラジオ10講義）を含む、全

101講義（テレビ52講義、ラジオ49講義）の特別講義を放送した。

2011年度新規開設特別講義

講義題目	講 師		
和紙彫塑の美を究める	和紙彫塑家	内海 清美	TV
近代小説の誕生 ～バルザック「人間喜劇」をめぐって	大手前大学副学長	柏木 隆雄	TV
広がる工芸の世界	放送大学高知学習センター所長	石川 充宏	TV
日本漫画と文化多様性 ～世界に拡散する絵物語コミュニケーション～	東京工業大学大学院教授	出口 弘	TV
藁の文化：欠かせない日本の意匠	放送大学千葉学習センター所長	宮崎 清	TV
アディクション ～その現実と回復への支援～	京都大学霊長類研究所所長	松沢 哲郎	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～	日本病院薬剤師会会長 (群馬大学医学部名誉教授)	堀内 龍也	TV
生涯現役の社会へ ～高齢者雇用の今～	法政大学教授	上林 千恵子	TV
国際ボランティア学への招待	放送大学教授 学習院大学教授 元お茶の水女子大学教授	山田 恒夫 川嶋 内海 辰彦 成治	TV
江戸に咲いた和算の夢 ～数学者・関孝和物語～	放送大学教授四日市大学教授 四日市大学関孝和数学研究所所長	熊原 啓作 小川 束 上野 健爾	TV
渡り鳥の旅を追う	東京大学大学院教授	樋口 広芳	TV
生命起源の謎に迫るGADV仮説	放送大学奈良学習センター所長	池原 健二	TV

講義題目	講 師		
ミャンマーインレー湖周辺の水環境	放送大学東京足立学習センター所長	富永 典子	TV
日本海の生い立ちを探る ～山陰海岸ジオパーク～	放送大学鳥取学習センター所長 大阪市立大学教授	西田 良平 三田村 宗樹	TV
森 鷗外の原風景 ～石見人・森林太郎～①津和野時代	花園大学名誉教授	山崎 國紀	R
森 鷗外の原風景 ～石見人・森林太郎～②心の軌跡	花園大学名誉教授	山崎 國紀	R
シャンソンの女王 ～エディット・ピアフ物語～	作曲家・ 元慶應義塾大学非常勤講師	吉田 進	R
朗読で追求する美しい日本語	女優	幸田 弘子	R
一葉と龍之介 ～文学と統計学の狭間から	一橋大学名誉教授	新井 皓士	R
ワイン産業と地域ブランド	愛知県立大学教授	竹中 克行	R
インフルエンザ1 感染症は不意にあらわれる ～新型インフルエンザから学んだこと～	理化学研究所新興・再興感染症 研究ネットワーク推進センター	加藤 茂孝	R
インフルエンザ2 インフルエンザの流行は糖鎖でまき～鳥からヒトへ～	中部大学教授	鈴木 康夫	R
50代からの英語	清泉女子大学教授	大杉 正明	R
50代からの中国語	東京工科大学教授	陳 淑梅	R

インターネット配信

2007年度から、在学生用ホームページ（キャンパス・ネットワーク・ホームページ）で、授業科目のインターネット配信（ストリーミング配信）を開始している。配信科目数は年々増加しており、ラジオ科目はほぼすべてをインターネット配信している。2011年度の配信科目数は、テレビ72科目、ラジオ156科目、特別講義42講義である。

2011年度のインターネット配信科目数

	テレビ	ラジオ
学 部	65	118
大 学 院	7	38
特別講義	0	42
合 計	72	198

寄附科目

放送大学では、様々な機関からの支援を受け、社会の要請に応じた講義を開設している。2011年度には、6科目の寄附科目を放送した。

2011年度開設寄附科目一覧

科目名	寄付団体名	メディア
著作権法概論('10)	日本音楽著作権協会	R
消費者と証券投資 ('11)	日本証券業協会	TV
組織運営と内部監査('09)	日本内部監査協会	TV
社会と銀行 ('10)	全国銀行協会	TV
うま味発見100年 ～その先端科学を探る～（特別講義）	味の素株式会社 ライフサイエンス研究所	TV
薬物治療に貢献する ～病院薬剤師の役割～（特別講義）	日本病院薬剤師会	TV

対面による授業

面接授業

面接授業は、放送授業とともに放送大学の教育の中心に位置づけられており、全国50カ所の学習センターと全国7カ所のサテライトスペースで開講している。2011年度の開講科目数は、2,884科目（1学期1,386科目、2学期1,498科目）である。

面接授業科目は、放送大学の専任教員や、地元の客員教員による対面での授業であり、教員と学生の交流だけでなく、学生同士の出会いの機会ともなる。

また、教養学部という特性に応じた幅広い内容のものであり、授業形態も通常の講義や実験だけでなく、フィールドワークや施設見学など多彩な科目を開講している。北海道・東北ブロック連携面接授業「文学と風土」など、各地の学習センターが統一テーマの面接授業を行なっている。

また、履修計画を立てる上で、可能な限り早く成績評価をお知らせするため、2011年度第2学期から面接授業の受講生に対して、学期前半に行われた面接授業の成績を仮成績としてシステムWAKABAに掲載し、意欲ある学生に、できるだけ多くの学習機会を提供できるよう、常に制度の見直しを図っている。

■ 2011年度 面接授業の例

学習センター名	科目名	専任教員氏名
東京多摩学習センター	フランスの社会福祉	松村 様子 教授
静岡学習センター		
熊本学習センター		
埼玉学習センター		
東京足立学習センター	イメージを用いた心理療法	小野 けい子 教授
和歌山学習センター		
沖縄学習センター		
茨城学習センター	遊具から都市の環境デザイン	仙田 満 教授
新潟学習センター		
沖縄学習センター		
岩手学習センター	徒然草と日本文化	島内 裕子 教授
岐阜学習センター		
東京多摩学習センター	宇宙の中の惑星・地球・生命	海部 宣男 教授
京都学習センター		
奈良学習センター		
徳島学習センター		

興味・関心に合った科目を選びやすく

授業科目案内・科目検索システム

放送大学には教養学部のもとに幅広い学問分野の科目がテレビ・ラジオ合わせて約300科目ある。例えばその中で、心理学関係の科目だけでも基礎から専門に至るまで20科目以上開講している。そのため学生が学びたい科目を選ぶことはなかなか難しい作業となる。

そこで、科目の内容や見どころ、学習アドバイスなどを主任講師が解説する番組「授業科目案内」（テレビ15分）が2010年度からスタート。これまでに50科目以上が紹介された。テレビの全国放送で一日おきに様々な科目を紹介しているほか、ホームページでも見ることができる。

また、インターネットの検索ツールを用いた科目選びサービスの充実を進めている。



授業科目案内

「見つかる！科目ナビ」では学習テーマや放送時間、放送大学エキスパートと連動した専門分野の科目検索など様々な条件で、「学ぶきっかけ」作りをサポートしている。全国各地で3000クラス程度が開講される面接授業（スクーリング）も、開催日、学習センターや、フリーワードで興味のある授業を探ることができる。今後も、学生一人一人の学び気持ちに応えるインターネットでのサービスを整備していく予定である。



科目ナビ

誰もが心地よく学べるために

特別な支援が必要な学生への学習支援

放送大学では、いかなる学生に対しても学習機会が阻害され不利益が生じることのないよう、さまざまな学習支援体制の整備を進めている。例えば、聴覚障がいがある学生への支援としてテレビ授業科目における字幕番組を提供している。2011年度第2学期に字幕を付して放送を行った授業は55科目あり、これは全テレビ科目の約32%にあたる。特別講義についても52科目中31科目（約60%）に字幕を付して放送をおこなった。

また単位認定試験時には、ハンディキャップの程度に応じ

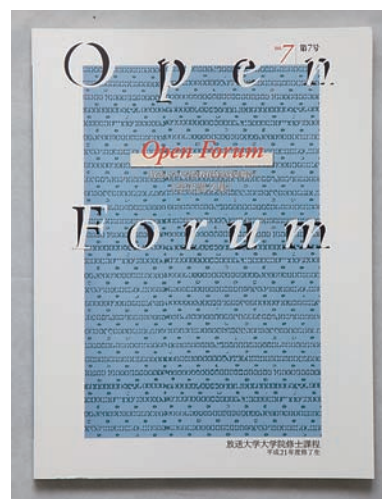
て、別室受験、試験時間の延長等の特別措置を講じている。たとえば、2011年度第1学期単位認定試験における音声出題の対象科目数は84科目で、対象となった学生数は延べ103名であった。また、点字での出題対象科目数は83科目であり、対象となった学生数は延べ116名であった。その他、必要に応じて、特別支援学校、病院においても単位認定試験を実施しており、2011年度第1学期は8名（延べ12名）の学生が受験した。

学生の研究成果の公開

放送大学（学部）では、学生が指導教員から直接指導を受けながら論文作成を進める卒業研究を開設しており、毎年多くの学生が履修している。2007年度より、卒業研究の履修を希望する学生への情報提供として、卒業研究のテーマ一覧と、研究成果である卒業研究報告書を、キャンパス・ネットワーク・ホームページ上で公開している。2011年度においては、2010年度の「卒業研究報告書テーマ一覧」と「卒業研究報告書（全文）」26点を公開した。

大学院については、修士論文を基にした学生論文集「Open Forum（放送大学大学院教育研究成果報告）」を2005年3月より刊行している。この論文集は、在学生や今後の入学者への情報提供のほか、大学から社会に向けた情報発信、教員の自己点検・自己評価、修士課程の教育研究

内容が具体的に見える資料として利用されることを目的としている。2011年3月刊行の第7号には、2009年度修了生全396名の研究成果の中から、論文12点、研究ノート35点が掲載されている。



Open Forum 7号

オープンコースウェア

オープンコースウェア（OCW）とは「大学で正規に提供された講義とその関連情報に関するインターネット上での無償公開活動」のことである。

学びたいと願う人のすべてが、いつでも何所にも学べる「開かれた大学教育」を目指して設置された放送大学は、オープンコースウェアの理念に賛同し、2009年日本オープンコースウェアコンソーシアムに正会員として参加、2010年から特色ある授業科目をインターネット上で公開している。

■ 2011年度オープンコースウェア科目一覧

科目名	講師	メディア
入門線型代数（'09）	隈部 正博	TV
空間とベクトル（'09）	松本 幸夫／川崎 徹郎	TV
コンピュータのしくみ（'08）	岡部 洋一	TV
解析入門（'08）	熊原 啓作／河添 健	TV
人格心理学（'09）	大山 泰宏	R
日本文学の読み方（'09）	島内 裕子	R
環境と社会（'09）	鈴木 基之／植田 和弘	R
統計学（'09）	藤井 良宜	R
教育心理学概論（'09）	太田 信夫	R
公衆衛生（'09）	多田羅 浩三／瀧澤 利行	R
北東アジアの歴史と朝鮮半島（'09）	吉田 光男	R
心理・教育統計法特論（'09）	福田 周／卯月 研次	R
特別講義：ジャーナリストの父、タレントの息子～明治日本に貢献したブラック親子～	柏倉 康夫	R
特別講義：世界の名著を読む 国富論から学ぶ	竹本 洋	R
特別講義：人と動物のかかわり1.身近な動物	石橋 正彦	R
特別講義：人と動物のかかわり2.ネズミの話	石橋 正彦	R
特別講義：地球上最大の動物、クジラ	大隅 清治	R

もう一度みたい名講義

放送大学アーカイブス

放送大学では、1985年（昭和60年）4月から放送による授業が開始され、これまでにラジオ、テレビあわせて2,000を超える科目が制作され放送されてきた。

役割を終え閉講された科目を収めた放送テープは、放送大学本部の「永久保管庫」に保管されている。

2011年10月、BSデジタル放送の開始を記念し、告知番組「もう一度みたい名講義～放送大学アーカイブス～」の制作と放送がはじまった。これは、開講当時の貴重な講義の中から特に人気の高かったテレビ科目をもう一度広く視聴者に見ていただくというもので、授業の概要と講師紹介とを番組冒頭に新たに付加した上で、当時の授業をほぼそのまま伝えている。取り上げる科目は、各コースの教員で構成された委員会において推薦されたもので、2011年度は25本を制作した。

■ 番組例

科目名	講師	
生活と芸術（'90）～茶室の世界～	静岡文化芸術大学長	熊倉 功夫
基礎物理学（'86）～仕事とエネルギー～	東京教育大学名誉教授	戸田 盛和
近代経済思想（'87）～経済思想とは何か～	評論家	西部 邁
芸能と社会（'89）～芸能と私～	俳優	小沢 昭一
住居Ⅲ（'87）～規模計画～	建築家 東京芸術大学名誉教授	清家 清



小沢 昭一



熊倉 功夫

科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）の拡充

放送大学では、2006年度から本学独自の制度として、科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）を導入した。これは本学が指定する特定の授業科目群を履修することにより、ある分野に目的・関心を持ち、そのための学習を体系的に行なったことを証明するものである。その後、2007年に学校教育法が改正され、新たに大学等に「履修証明制度」が規定されことを機に、2008年度からは、この「履修証明制度」に対応するものとして再スタートしている。

当初10プランで始まった本制度だが、その後、毎年新しいプランを創設し、2011年度2学期では臨床心理学基礎プランを追加して24プランとなっている。

取得認証数は、2006年度223認証、2007年度1,092認証、2008年度2,848認証、2009年度2,552認証、2010年度では2,469認証となっており、2011年度も前年度と同程度の認証取得が見込まれている。2011年12月31日までの累計取得数は10,350認証にのぼっており、学生の修学目標の一つとして定着していることがわかる。

■ 2011年12月31日現在の認証状取得者数

認証プラン名	認証状の名称	認証状取得者数
1 健康福祉指導プラン	健康福祉運動指導者	1,497
2 福祉コーディネータプラン	福祉コーディネータ	1,141
3 社会生活企画プラン	社会企画士	628
4 食と健康アドバイザープラン	食と健康アドバイザー	311
5 心理学基礎プラン	心理学基礎	1,481
6 臨床心理学基礎プラン	臨床心理学基礎	9
7 社会探究プラン	現代社会の探究	274
8 市民活動支援プラン	市民政策論	320
9 実践経営学プラン	経営の理解	292
10 ものづくりMOTプラン	ものづくりとMOT(技術経営)を学ぶ	119
11 次世代育成支援プラン	次世代育成支援	748
12 コミュニティ学習支援プラン	地域生涯学習支援	134
13 異文化コミュニケーションプラン	異文化理解支援	369
14 アジア研究プラン	アジア研究	157
15 日本の文化・社会探究プラン	日本の文化と社会	228
16 宇宙・地球科学プラン	宇宙・地球科学	218
17 生命科学プラン	生命人間科学	460
18 環境科学プラン	環境科学の基礎	310
19 社会数学プラン	数学と社会	128
20 エネルギー・環境研究プラン	エネルギー環境政策論	128
21 芸術系博物館プラン	芸術系博物館活動支援	516
22 歴史系博物館プラン	歴史系博物館活動支援	674
23 自然系博物館プラン	自然系博物館活動支援	136
24 工学基礎プラン	工学基礎	72
合 計		10,350

キャリアアップを支援する

資格取得

放送大学で修得した単位は、以下の資格取得のために活用することができる。

看護師国家試験受験資格、教員免許状の上位・他教科・隣接校種の免許状、学校図書館司書教諭資格、特別支援学校教諭二種免許状（知的障害者教育領域、肢体不自由教育領域）、養護教諭免許状、栄養教諭免許状、図書館司書資格、学芸員資格、社会教育主事資格、社会福祉主事資格、介護教員講習会の対応科目

また、2009年度からは、教員免許更新制の開始に伴い、教員免許更新講習を実施している。本学の特性を活かし、テレビ・ラジオ及びインターネットを利用し、全国どこでも講習の受講が可能となっている。この講習は毎年度2回（夏期及び冬期）実施することとしており、2011年度の講習では約5,000名の受講者が、約17,000科目を受講した。

他機関への教育支援

単位互換の取り組み

本学は、全国のエデュケーション機関と積極的に単位互換協定を進めている。

2011年度には、新たに15の大学及び短期大学、2校の高等専門学校と単位互換協定を締結し、合計で371校となった。

2011年度に締結した単位互換協定校

大学等名
アカデミック・コンソーシアムふくしま10校
北里大学
東京家政大学
東京家政大学短期大学部
福井医療短期大学
福井工業高等専門学校
宇部フロンティア大学
熊本保健科学大学

専修学校との連携協力

本学には、専修学校専門課程と連携協力を実施し、専修学校専門課程に在籍しながら学士（教養）の学位を取得できる制度を設けている。

2011年度も新たに1校の専修学校と連携協力の覚書を締結し、合計で22校となった。

2011年度に締結した連携協力校（専修学校）

学校名
神戸電子専門学校

高大連携の取り組み

本学では高等学校と連携し、高校生が放送授業で学習する高大連携を推進している。

2011年度も新たに1校の高等学校と連携協力の覚書を締結し、合計で14校となった。

2011年度に締結した連携協力校（高等学校）

学校名
太平洋学園高等学校

放送大学における研究

特別研究と外部資金による研究

放送大学では、専任教員が数多くのテーマのもと研究を積極的に実践し、その成果を世に送り出している。また、特に研究の支援・推進のために放送大学では、特別研究費の制度を設けている。そして、放送大学の発展に寄与しうると考えられる教育・研究プロジェクト、学術上あるいは大学運営上、評価しうるプロジェクト支援として、また教員個人の研究を支援するために、個人特定研究として資金面での支援をしている。

放送大学教育振興会など他からの助成基金も積極的に得て研究を進めている。

2011年度に特別研究として、また放送大学教育振興会・日本学術振興会の助成で実施した研究テーマは以下のような多彩なテーマがある。

■ 2011年度学長裁量経費I（グループ研究・プロジェクト支援）決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	井出 訓	認知症にやさしい町づくりプロジェクトin千葉
	教 授	大曾根 寛	放送大学の学生への学習支援体制のあり方に関する調査研究 —チューター制など人的支援の課題を模索する—
心理と教育	教 授	岩永 雅也	放送大学のアジア展開の可能性に関する調査研究
社会と産業	教 授	坂井 素思	「知識循環研究」の制度化に関する研究
	教 授	仙田 満	幼児の成育環境が運動能力に与える影響に関する研究（その2）
人間と文化	教 授	杉浦 克己	音声添削を用いた日本語教育コンテンツの作成
附属図書館	館 長	松村 祥子	アジアの公開大学の図書・情報サービス —タイとマレーシアを中心に—
ICT活用・遠隔教育センター （ICT活用・遠隔教育推進部門）	准教授	浅井 紀久夫	データ可視化のための没入型提示装置の基盤構築
ICT活用・遠隔教育センター （国際連携部門）	教 授	三輪 眞木子	PRIMEスタジオを活用した放送番組とWeb教材の効果的な開発手法

■ 2011年度学長裁量経費II（個人特定研究助成）決定者一覧

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
生活と福祉	教 授	大曾根 寛	保育政策の変容過程と実践の展開に関する調査研究 —つくば地域における保育サービスの半世紀の変遷を通して—
	教 授	奈良 由美子	地震被災者の生活再建とリスク管理に関する研究
	教 授	松村 祥子	災害と生活支援情報 —グローバル時代の情報格差—
	教 授	宮本 みち子	若者の社会参画に関する政策動向と参画実態に関する国際比較研究
	准教授	川原 靖弘	日常使用が可能な自律神経トレーニングのための ウェアラブルバイオフィードバックシステムの構築
人間と文化	教 授	内堀 基光	制作部保存の「ヒューマン」ラッシュ映像のアーカイブ化
	教 授	本多 俊和	2011年度教科書におけるアイヌ民族に関する記述
ICT活用・遠隔教育センター （ICT活用・遠隔教育推進部門）	教 授	黒須 正明	離島地域の実態とインターネットによる遠隔学習のあり方に関する調査研究
	准教授	高橋 秀明	時間圧力下における人間のプロセス制御行動： 繰り返し課題解決による変化に注目して
ICT活用・遠隔教育センター （国際連携部門）	准教授	鈴木 一史	高次局所自己相関特徴の拡張と多次元データ解析に関する研究

■ 放送大学教育振興会助成による研究：
多様なメディアの研究開発助成、教育システムの研究開発助成、教材の研究開発助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
社会と産業	教 授	小倉 行雄	教材「修士論文のつくり方」、冊子およびDVD作成事業
	教 授	河合 明宜	テレビ科目「途上国を考える」制作のための事前調査（映像及び資料収集）
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	黒須 正明	学習手段の選択と利用に関する人工物発達学的分析
	教 授	近藤 喜美夫	放送教育への双方向性付与による学習支援手法の研究
	教 授	広瀬 洋子	放送大学におけるメディアを活用した障害者支援の開発
	准教授	高橋 秀明	遠隔教育学習過程の記述：放送大学教員・学生を対象に
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	三輪 眞木子	放送大学生のデジタルリテラシーを支援する知識共有手法の研究
	准教授	柳沼 良知	電子書籍型放送大学教材の開発に関する研究

■ 放送大学教育振興会助成による研究：国際調査助成、海外への教材普及助成、国際交流助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	学 長	岡部 洋一	国際交流の推進
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	青木 久美子	海外公開遠隔教育大学における成績評価に関する調査研究

■ 放送大学教育振興会助成による研究：機関特別推進研究等に係る助成

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
	副学長	來生 新	高大連携を含む単位互換・連携協力の推進及び資格取得教育の支援充実

■ 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）

所 属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
社会と産業	教 授	岡田 光正	基盤A	廃棄物リサイクルによる藻場・干潟再生技術の開発
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	加藤 浩	基盤A	生涯学習ポータルサイトにおける 学習コミュニティ形成支援機能の研究
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	山田 恒夫	基盤A	国際的な生涯学習コミュニティ構築のための 学習コンテンツ共有・流通システムの研究
	副学長	二宮 皓	基盤B	国際学力競争におけるグローバル・ガバナンスの実相の比較研究 ーPISAを事例としてー
	副学長	吉田 光男	基盤B	戦前期日本人研究者による朝鮮知の構築
	教 授	大曾根 寛	基盤B	障害をめぐるEUの政策と各国の相互作用に関する国際比較研究 ー社会的包摂に向けてー
生活と福祉	教 授	奈良 由美子	基盤B	生活の安全・安心の実現とリスク管理・ リスクコミュニケーションについての比較文化研究
	教 授	宮本 みち子	基盤B	労働市場から排除された若者を支援する政策手法と その評価に関する国際比較研究
心理と教育	教 授	小川 正人	基盤B	2000年代以降の分権・行財政改革下における地方教育行財政 の変容に関する調査研究
人間と文化	教 授	草光 俊雄	基盤B	ロマン主義時代の旅行記とその歴史的背景 ー国家意識・国民意識の変容を中心にしてー
自然と環境	教 授	米谷 民明	基盤B	ゲージ重力対応と非摂動的超弦理論の構築
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	准教授	浅井 紀久夫	基盤B	技能伝承のための触力覚協調インタラクションによる 分散訓練環境の構築
	准教授	近藤 智嗣	基盤B	博物館における複合現実感共用システムの構築と 科学的思考の育成に関する縦断的研究
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	教 授	青木 久美子	基盤B	構成主義に基づいた授業設計のための 学習デザイン共有化ツールの研究開発
	教 授	三輪 眞木子	基盤B	情報専門職教育における学位・資格の国際的な同等性と 互換性に関する研究
東京足立学習センター	特任教授	富永 典子	基盤B	ミャンマーカチン州未調査地域における貧困対策・ 健康増進のための有用資源の学術調査
生活と福祉	教 授	小城 勝相	基盤C	メタボリックシンドローム予防食品成分の評価法の確立とその応用
人間と文化	教 授	宮下 志朗	基盤C	「文芸の共和国」としてのプランタン＝モレトゥス出版工房 の総合的研究ー第二期
自然と環境	准教授	二河 成男	基盤C	昆虫が水平転移により共生細菌から獲得した遺伝子群の進化と機能
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	准教授	芝崎 順司	基盤C	携帯電話によるコンテンツ発信・ 評価情報交流型ユビキタス学習環境の構築に関する研究

■ 日本学術振興会の科学研究費助成事業による研究（氏名は代表者）

所属	職 名	氏 名	研究種目	研究課題名
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	教 授	苑 復傑	基盤C	中国における高等教育の国際競争力強化体制 ーその構造と日本への含意ー
	教 授	黒須 正明	基盤C	ユーザエクスペリエンス評価手法の開発
	教 授	近藤 喜美夫	基盤C	国際教育交流における議論の質を向上させる 遠隔コミュニケーション支援システムの開発
	教 授	中川 一史	基盤C	初等教育国語科における 「みる」「みせる・つくる」領域育成向上教育プログラムの開発
	准教授	大西 仁	基盤C	触知覚・運動モデルに基づく触覚通信の品質向上
東京世田谷学習センター	特任教授	秋鹿 研一	基盤C	自然エネルギー貯蔵を目指す新しいアンモニア吸蔵剤の研究
広島学習センター	特任教授	安原 義仁	基盤C	イギリスの学外試験委員制度に関する歴史的研究 ー高等教育の質保証に着目してー
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	加藤 浩	挑戦萌芽	社会構築主義的能力観に基づく 新しい形成的教育評価手法の研究
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	准教授	浅井 紀久夫	挑戦萌芽	拡張現実感を利用した科学館展示における学習環境の研究
生活と福祉	准教授	川原 靖弘	若手B	物流における屋内外シームレス測位システムの研究
	准教授	戸ヶ里 泰典	若手B	成人労働者におけるストレス対処能力SOCの形成に関する縦断研究
心理と教育	准教授	森 津太子	若手B	裁判員の量刑判断におけるヒューリスティクス利用とその既定因
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	准教授	葉田 善章	若手B	ユビキタス環境下での手書き入力を使った 対面授業を支援する学習環境の構築
ICT活用・遠隔教育センター (ICT活用・遠隔教育推進部門)	助 教	杉山 秀則	若手B	複数コンソーシアムを横断した教材共有化システムの開発
ICT活用・遠隔教育センター (国際連携部門)	准教授	森本 容介	若手B	教育・学習コンテンツの再利用を促進する環境の構築と評価

■ 日本学術振興会の最先端・次世代研究開発支援プログラムによる研究

所 属	職 名	氏 名	研究課題名
ICT活用・遠隔教育センター (大学支援部門)	教 授	仁科 エミ	ハイパーソニック・エフェクトを応用した健康・快適なメディア情報環境の構築

放送大学研究年報

『放送大学研究年報』は、放送大学の専任教員が日頃の研究に基づき様々なアイディアや研究結果を発表する場である。2010年版を2011年3月に発行した。

■ 放送大学研究年報 第28号 2010年

氏名(所属)	共著者	研究課題名
大曾根 寛 (生活と福祉)	水戸 川真子	精神保健福祉法上の強制入院における精神障害者の権利擁護
佐藤 仁美 (心理と教育)		色彩コラージュにおける表現空間 ー構成・構造の視点からー
坂井 素思 (社会と産業)		知識産業の多様なネットワーク組織特性 ー規模の経済性か、ロングテールの経済性かー
齋藤 正章 (社会と産業)		純粋持株会社における経営管理上の課題
佐藤 康邦 (人間と文化)		感覚はどこまで考えることができるのか ー「判断力批判」におけるイマヌエル・カントの美的(直観的)基準理念についての研究ー
青山 昌文 (人間と文化)		デイドロ演劇論研究 ー役者の演技の在り方についてー
井口 篤 (人間と文化)		世界の端っこで他者を我有化する ー現代日本文化における西洋中世の表象ー
黒須 正明 (ICT・遠隔教育推進)		ユーザエクスペリエンスと満足度 ー学生満足度の概念と測定法の整備に向けてー
広瀬 洋子 (ICT・遠隔教育推進)		英国公開大学(The Open University)における 障害者の学習支援システム
柳沼 良知 (ICT・国際連携)	鈴木 一史 児玉 晴男	教科書の電子化の動向とプロトタイプシステムの開発
島内 裕子 (人間と文化)		吉田健一における文学形成 ー「新訳アンデルセン御伽噺」と「和訳聊齋志異」を中心に



放送大学研究年報 第28号

研究成果の発表・普及

放送大学の専任教員・学習センター所長は、研究の成果を発表し共有・普及するために、印刷教材以外にも、多数の研究書籍を編集・執筆している。

また辞書・辞典の編集にも積極的にかかわっている。これらの書籍は一般書店でも購入することが可能である。ま

た、放送大学や公共の図書館などに所蔵されていることも多いので、閲覧することも可能である。特に書籍については、放送授業や印刷教材の内容より詳細に記されている場合もあり、各教員が日々取り組んでいる研究テーマや研究活動・成果に深く触れる絶好の機会となるであろう。

専攻・氏名		書籍名 辞典名	出版社
副学長	吉田 光男	東アジア書誌学への招待（共著）	東方書店
生活と福祉	宮本 みち子	『二極化する若者と自立支援』 宮本 みち子・小杉 礼子編著	明石書店
	松村 祥子	世界の社会福祉年鑑2011 第11集	旬報社
	大曾根 寛	『障害者基本法改正に対する原理的評価』, ノーマライゼーション9月号 『障害者への自立支援給付に関する義務付け判決の意義と課題』	日本障害者リハビリテーション協会 旬報社
心理と教育	住田 正樹	子どもの発達社会学（共編著）	北樹出版
	岩永 雅也	よくわかる教育原理（共著）	ミネルヴァ書房
	小川 正人	教育六法 平成23年度版（編集委員）	三省堂
	小野 けい子	臨床バウム～治療的媒体としてのバウムテスト～(共著)	誠信書房
社会と産業	仙田 満	遊環構造Book SENDA MAN 1000	美術出版社
		東日本大震災からの日本再生（共著）	中央公論社
		Rebuilding Japan after the Great East Japan Earthquake and Tsunami	Asia Institute of Urban Environment
	原田 順子	『海と空の港大事典』（編集委員）	成山堂
人間と文化	五味 文彦	後白河院 王の歌	山川出版社
		西行と清盛 時代を拓いた二人	新潮選書
	内堀 基光	『ものの人類学』床呂 郁哉、河合 香吏編（共著）	京都大学学術出版会
		『グローバル化とく生きる世界>：生業からみる人類学的現在』 松井 健、名和 克郎編（共著）	昭和堂
		『アスディフル武勲詩』レヴィ・ストロース（巻末解説）	筑摩書房
	宮下 志朗	神をも騙す	岩波書店
		『写真の秘密』ロジェ・グルニエ（訳著）	みすず書房
	苑 復傑	比較教育学事典	東信堂
自然と環境	熊原 啓作	入門微分積分学15章	日本評論社
		多変数の微分積分学15章	日本評論社
	米谷 民明	光を止められるか アインシュタインが跳んだこと	岩波出版
岩手学習センター	齋藤 徳美	『岩手県謎解き散歩』（分担執筆）	人物往来社
奈良学習センター	池原 健二	Advances in the Study of Genetic Disorders	InTech-Open Access Publisher

世界に羽ばたく放送大学

2011年も、第24回国際遠隔教育会議（ICDE）世界大会や、第25回アジア公開大学連合（AAOU）年次大会などへの参加により、国際交流に積極的に取り組んだ。

第25回AAOU年次大会への参加

2011年9月28日から30日の3日間、アジア公開大学連合（AAOU=Asian Association of Open Universities）の第25回年次大会がマレーシアのペナンで開催された。主催大学は、ワワサン公開大学（Wawasan Open University）であり、同大学のメインキャンパスが会場となった。世界68の機関から約350名の参加があり、たいへん盛況な大会となった。本学からは、岡部洋一学長ら教職員8名が参



加した。

第25回AAOU年次大会のテーマは、「遠隔・公開教育によるアジアの教育の包括的な向上」(Transforming Asia through Open Distance Learning (ODL))であり、遠隔・公開教育によってアジアの教育レベルをいかにして包括的に上昇させるか、ということが話し合われた。

岡部学長らがAAOU役員会（Board Meeting）に参加したほか、他の教員が年次大会期間中それぞれのパネルディスカッション等で司会、報告等を行なった。



第26回AAOU年次大会は、本学の主催により2012年10月16日から18日まで3日間の予定で、幕張メッセの国際会議場で開催されるため、閉会式では日本での開催プロモーションも行われた。

ICDE-SCOP2011会議及び第24回ICDE世界大会への参加

本学は国際遠隔教育会議（ICDE=International Council for Open and Distance Education）の機関会員となっており、2011年も各ICDE会議に積極的に参加した。

2011年6月20日～22日にかけて、世界各国の遠隔教育に関する情報共有等を行うことを目的とした国際遠隔教育会議の遠隔教育機関長会議2011（ICDE-SCOP2011=Standing Conference of President）がニューヨークで開催され、本学から岡部学長ら2名が参加した。

また、2011年10月2日～5日にかけて、第24回ICDE世界大会がインドネシア・バリ島でインドネシアのテルプカ大



学の主催により開催された。隔年に1度開催されるこの世界大会は、今回、公開遠隔教育（ODL）への新たなアプローチについて“Expanding Horizons – New Approaches to Open and Distance Learning (ODL)”とのテーマで議論を行い、50か国から約600人以上が参加した。本学からは岡部学長はじめ教職員7名が参加し、うち4名の教員がそれぞれ分科会等で発表を行った。今回、本学も本大会のスポンサーとなったことで、配布プログラムや会場内の映像に他の機関と共に本学の名前やロゴも掲示され、放送大学の存在を世界に示す機会にもなった。



第3回 日中韓セミナー

2011年9月19日（月）、第3回日中韓セミナーが中国北京市のChina People's Palace において開催された。今回は2009年の韓国（ソウル）、昨年度の日本（千葉）での開催に続き中国での開催となった。第3回のテーマは「Reforming Educational Management in Open Universities」であり、本学から、岡部学長、苑教授、大橋准教授ら計4名、中国中央広播電視大学（OUC 及び中国国内の公開大学）から23名、韓国放送通信大学校（KNOU）から6名が参加した。岡部学長からは、3月に起きた大震災で各国からのお見舞いメール等を頂いたことへの謝辞や、2012年に幕張でAAOU年次大会開催の紹介などがあった。セッション1「Effective Management of Open Universities」では大橋准教授から放送大学における学生サポートセンターの現状について、続くセッション2「Facilitating Life-long

Learning and Learning for All through Integration of ODL Resources」では苑教授から日本の高等教育機関におけるICT利用についての発表があり、いずれも活発な議論が展開された。

9月20日（火）には、中央広播電視大学や北京広播電視大学を、21日（水）には、中央広播電視大学の学習センター等をそれぞれ視察した。



国際シンポジウム2011

本学ICT活用・遠隔教育センター（CODE）は、英国、カナダ、オーストラリア、香港、そして日本国内から有識者を招き、2011年2月23日に幕張メッセ国際会議場に



において国際シンポジウム2011を開催した。石学長（当時）の挨拶に続き青木久美子教授の総合司会により「高等教育・生涯教育におけるデジタルリテラシー」をテーマに進行され、高等教育や生涯教育において、学習者中心主義や構成主義に基づく教育モデルを可能にするという点で、教育のパラダイム・シフトを促す原動力となりえるデジタルリテラシーについて5つの招待講演及びパネルディスカッションが行われた。それぞれの講演では、学生及び教員のデジタルリテラシーを養成するにあたっての課題や方向性が議論された。

放送大学への外国人訪問

2011年は、東日本大震災の影響もあり例年より少なくなったものの、下記のとおり外国からの訪問団が遠隔教育に関する情報交換等のために本学を訪れた。

月 日	訪問者
2月4日	JOCA青年研修インド／ 情報通信技術政策コース訪問団（20名）
8月4日	韓国キョンヒサイバー大学訪問団（3名）
11月10日	四川広播電視大学他訪問団（22名）
12月12日	北京広播電視大学訪問団（4名）



韓国キョンヒサイバー大学関係者



四川広播電視大学他教職員

社会への貢献

本学は「開かれた大学」として、建学以来、熱心に社会貢献に取り組んできた。
多岐にわたる社会貢献活動を行っているが、ここではその中から、本学の教員が行った活動の一部を紹介する。

日本学術会議

日本学術会議は、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的として、昭和24年（1949年）1月、内閣総理大臣の所轄の下、政府から独立して職務を行う「特別の機関」として設立された。職務は、以下の2つである。

- 科学に関する重要事項を審議し、その実現を図ること。
- 科学に関する研究の連絡を図り、その能率を向上させること。

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、生命科学、理学・工学の全分野の約84万人の科学者を内外に代表する機関であり、210人の会員と約2000人の連携会員によって職務が担われている。

日本学術会議の役割は、主にⅠ政府に対する政策提言、Ⅱ国際的な活動、Ⅲ科学者間ネットワークの構築、Ⅳ科学の役割についての世論啓発である。

本学の教員も連携会員に選ばれ、その活動に貢献している。
下表は本学の会員加入状況を示すものである。

■ 日本学術会議での会員（連携会員）加入状況

氏 名	職 名	専門分野
吉田 光男	副学長	史学
内堀 基光	教 授	地域研究
小川 正人	教 授	心理学・教育学
海部 宣男	教 授	物理学
宜保 清一	沖縄学習センター所長・特任教授	農学
齋藤 清機	岡山学習センター所長	化学
仙田 満	教 授	土木工学・建築学
原 純輔	宮城学習センター所長・特任教授	社会学
本多 俊和	教 授	地域研究
松本 忠夫	教 授	統合生物学
宮本 みち子	教 授	社会学

学会、国、地方自治体等での活動

本学の教員は学識者として、それぞれの専門性を生かし、社会において幅広く活躍している。活躍の場は学会のみならず、国・地方自治体等での様々な組織で活動し、社会の発展に寄与している。以下にその一部を紹介する。

■ 学会、国、地方自治体等での活動

氏 名	職 名	役 職
吉田 光男	副学長	日本学術会議連携会員（第1部・史学委員会所属）、東方学会理事、史学会監事、朝鮮史研究会会長、朝鮮学会常任幹事（編集委員）、韓国朝鮮文化研究会（編集長・運営委員）
松村 祥子	図書館長	日仏社会学会理事
宮本みち子	教 授	労働政策審議会委員、中央教育審議会臨時委員、横浜市経営諮問会議委員
大曾根 寛	教 授	日本社会保障法学会監事、名古屋市障害者施策推進協議会会長、名古屋市障害者・高齢者権利擁護センター事業運営委員会委員長、四日市市地域福祉計画策定検討委員会委員長、日本学術振興会科学研究費審査委員
奈良由美子	教 授	文部科学省 科学技術・学術審議会 研究計画・評価分科会 研究開発評価部会委員、文部科学省 科学技術・学術審議会 安全・安心科学技術委員会委員
住田 正樹	教 授	日本子ども社会学会会長
岩永 雅也	教 授	日本学術振興会「大学の世界展開力強化事業プログラム委員会」審査部会B専門委員、東京都足立区生涯学習公社理事、東京都足立区生涯学習関連施設指定管理者評価専門委員、日本教育社会学会・理事、社団法人社会調査協会・理事・事務局次長、生涯学習研究機構・常任理事・編集査読委員
小川 正人	教 授	文部科学省第6期中央教育審議会・副会長、初等中等教育分科会会長、国立教育政策研究所評議員、石川県金沢市教育委員会・第二次学校教育金沢モデル構築戦略会議委員、東京都足立区教育委員会・足立区教育委員会事務の点検・評価に対する有識者会議委員、岩手県東日本大震災津波復興委員会専門委員
森岡 清志	教 授	世田谷区基本構想審議会 会長
仙田 満	教 授	土木・建築学会委員会副委員長、子どもの育成環境分科会副委員長、景観と文化分科会委員長、大学等研究・キャンパス整備に関する検討分科会委員、デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会、日本建築学会（司法支援建築運営委員会委員）、建築博物館委員会委員、まちづくり支援建築会議運営委員会委員、こども環境学会代表理事、日本工学会フェロー、技術倫理協議会委員、最高裁判所裁判迅速化に係る検証に関する検討会委員、小田原市行政戦略アドバイザー、広島市新広島市民球場マスターアーキテクト
岡田 光正	教 授	（社）環境科学学会会長、（社）日本水環境学会顧問、（社）廃棄物資源循環学会評議員、環境省有明海・八代海総合調査評価委員会委員長、環境省中央環境審議会委員、同水環境部会長、同瀬戸内海部会長、広島県環境審議会会長、広島市環境審議会会長
川合 慧	教 授	情報処理学会一般情報教育委員会委員
本多 俊和	教 授	日本学術会議連携会員
内堀 基光	教 授	日本学術会議連携会員
米谷 民明	教 授	岡山県岡山光量子科学研究所評議員
隈部 正博	教 授	日本数学会評議員
加藤 浩	教 授	日本教育工学会 理事（編集委員、大会企画委員、大会実行委員）、日本科学教育学会（年会企画委員会副委員長）、教育システム情報学会（第37回全国大会実行委員）
大西 仁	准教授	電子情報通信学会ヒューマン情報処理研究専門委員会委員長、電子情報通信学会コミュニケーションクオリティ研究専門委員会委員、電子情報通信学会通信行動工学時限研究専門委員会委員、日本認知科学会運営委員会委員
三輪眞木子	教 授	納本制度審議会（国会図書館）委員、公文書管理委員会（内閣府）委員、科学技術情報事業委員会（独立行政法人 科学技術振興機構）委員長、日本図書館情報学会 常任理事 国際委員会委員長
齋藤 徳美	岩手学習センター所長	岩手山の火山活動に関する検討会座長、岩手山火山災害対策検討委員会委員長、岩手山火山噴火緊急減災対策砂防計画検討委員会委員長、青森・岩手県境不法投棄現場の原状回復対策協議会委員長、盛岡市環境審議会委員長、岩手県東日本大震災津波復興委員会総合企画専門委員会委員長
柴田 洋雄	山形学習センター所長	国土交通省東北整備局事業評価監視委員会委員長、山形県総合政策審議会会長、山形県大規模小売店舗立地審議会会長、山形市行財政改革推進懇話会座長
宮崎 清	千葉学習センター所長	アジアデザイン文化学会会長、経済産業省伝統的工芸品産業審議会委員
鈴木 敏男	福井学習センター所長	日本物理学会代議員
宜保 清一	沖縄学習センター所長	日本学術会議連携会員

一般向け講演会

大学で培われた教育ならびに研究の成果を広く社会に提供することは、大学と社会との垣根を取り去り、相互のさらなる発展が期待される。本学の教員は、その専門知識を、講演会を通じて社会に還元している。

以下にその活動の一部を紹介する。また今年は東京文京

学習センターのリニューアルオープンを記念して岡部学長による「放送大学のこれから」や白井理事長参加による特別シンポジウム「生涯学習と地域コミュニティづくり」などが開催された。



特別シンポジウム「生涯学習と地域コミュニティづくり」

■ 一般向け講演会

氏 名	職 名	テーマ	共催等
岡部 洋一	学 長	放送大学のこれから	東京文京学習センターリニューアルオープン記念
白井 克彦	放送大学学園理事長	特別シンポジウム 『生涯学習と地域コミュニティづくり』	東京文京学習センターリニューアルオープン記念
山本 健慈	和歌山大学長		
宮本 みち子	放送大学教授		
齋藤 徳美	放送大学岩手学習センター所長		
中島 興世	放送大学大学院修了生・前恵庭市長		
吉田 早苗	放送大学大学院在学学生	複眼的韓国論	品川区地域振興事業部
吉田 光男	副学長		
來生 新	副学長		
小野 けい子	教 授		
星 薫	准教授		
森 津太子	准教授	心理学の学び方	東京文京学習センターリニューアルオープン記念
松本 忠夫	教 授		
奈良 由美子	教 授		
高橋 和夫	教 授		
米谷 民明	教 授		
石丸 昌彦	教 授	現代における生物絶滅が意味すること	大田区民大学
松村 祥子	教 授	震災地レポート ～中国四川と東北地方視察報告～	
杉森 哲也	教 授	アラブの春、あるテロリストの死	
崎元 達郎	熊本学習センター所長	超弦理論とはどんなものか	
森 孝明	愛媛学習センター所長	心の健康と魂の健康 ～心の元気を支えるもの～	
西田 良平	鳥取学習センター所長	暮らしをつくりかえる ー災害・サステナビリティ・生活支援ー	品川区地域振興事業部
池原 健二	奈良学習センター所長	南蛮美術と神戸 ー収集家池長孟とその社会活動ー	
秋鹿 研一	東京世田谷学習センター所長・特任教授	加藤清正の土木事業	
宮崎 清	千葉学習センター所長	ドイツのビーダーマイヤー文化	
		「東日本大震災を考える」 ～「東日本大震災」は想定外か～	
		生命の起源と進化から見た生きる意味・学ぶ喜び	千葉県教育委員会
		食料とエネルギー ～日本の未来を考える～	
		薬の文化	



特別公開講座「放送大学のこれから」



公開講座「心理学の学び方」

より質の高い教育を目指して

大学機関別認証評価の認証を受ける

本学は2010年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構の大学機関別認証評価を受審し、2011年3月25日に大学評価基準を満たしているという評価を受けた。

主な優れた点として、「全国57か所に設置した学習センター及びサテライトスペースは、面接授業や単位認定試験のほか、学習指導・相談、放送教材の再視聴や貸出、図書の閲覧・貸出等を行っており、通信制大学の学生の学習を支援するために有効に機能している。」や、「放送・印刷教材の作成、面接授業の実施等のため、専任教員に加え、十分な数の客員教員と非常勤講師を配置し、専任教員と密接に連携して教育に当たることにより、広い分野における質の高い教育の提供に努めている。」等が上げられている。

一方、ICTのより一層の活用など更なる向上が期待される点についても指摘を受け、現在改善に向けて自己点検・評価委員会にて審議を行っている。

以下のホームページにおいて、今回の評価結果を公表している。

<http://www.ouj.ac.jp/hp/gaiyo/ninsyohyoka.html>

- ・平成22年度実施大学機関別認証評価評価報告書
- ・平成22年度実施選択的評価事項に係る評価評価報告書
- ・自己評価書（2010年6月）

■ 自己評価書の内容

- I 大学の現状及び特徴
- II 目的
- III 基準ごとの自己評価
 - 基準1 大学の目的
 - 基準2 教育研究組織（実施体制）
 - 基準3 教員及び教育支援者
 - 基準4 学生の受入
 - 基準5 教育内容及び方法
 - 基準6 教育の成果
 - 基準7 学生支援等
 - 基準8 施設・設備
 - 基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム
 - 基準10 財務
 - 基準11 管理運営
 - 基準12 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況
- IV 別添資料

授業評価の実施

本学では、教育内容や教授方法及び学習支援システム等の改善に資することを目的に、自己点検・評価の一環として次の3つの授業評価を実施している。

●学生による授業評価

対象科目：当該年度新規開設科目の全て

評価者：当該年度第1学期履修者より抽出

●学習センター所長及び客員教員による授業評価

対象科目：当該年度新規開設科目より選出

評価者：選出した科目と同一又は近接する分野を

専門とする学習センター所長及び客員教員

●専任教員による授業評価

対象科目：当該年度新規開設科目より選出

評価者：選出した科目のコース・プログラムの専任教員

評価結果は、各科目の主任講師、専任教員、放送部・制作部等の科目作成担当者に提供し、必要に応じて授業内容の修正等の改善を行っている。

また、通信指導・単位認定試験問題の改善及び学生からの質問に対する回答などの学習支援の改善にも活用している。

なお、学生による授業評価の内容はWebで閲覧できる。

<http://www.ouj.ac.jp/hp/osirase/jugyohyoka/index.html>

じっくり3年かけて授業科目を作成

よりよい教材作成のために、教材作成スケジュールの改善を実施している。現在取り組んでいる改善は、これまで開設前年度に放送教材及び印刷教材を同時に作成していたものを、印刷教材のみを切り離してさらにその1年前から作成を始めて、それぞれの教材作成に専念できるようにしようというものである。

このスケジュールに則って実施されることとなった本年は2014年度開設科目について主任講師会議を開催した。主任講師とは、放送授業科目について、印刷教材の執筆、放送教材の制作、通信指導問題と単位認定試験問題の作成・採点、質問票への対応を行う責任教員のことである。

本学の講義は、放送授業と面接授業からなる。どちらも放送大学の専任教員に加えて、他大学等の諸機関に所属する教育・研究者にも、客員教員や非常勤講師として講義を担当していただいている。これらの客員教員や非常勤講師には、本学や学生の特性について、事前に書面や面談にて周知しているが、特に放送授業の主任講師にとっては、放送での講義や印刷教材の執筆、通信指導、単位認定試験の問題作成等、他大学では未経験の業務が多数ある。そのため、本学では、放送授業の制作に先立って、主任講師となる専任及び客員教員を一同に集め、放送授業に関する諸事項について説明をしている。そこには、教材作成に携わる担当プロデューサー、ディレクターや印刷教材編集担当者も同席し、よりわかりやすい教材作成のための意見交換も行っている。

放送大学主任講師会議（2014年度開設科目）

2011年9月16日（金）

議事次第

【全体会】

1. 全体会開会
2. 学長あいさつ
3. 出席者紹介等
4. 教材作成等の留意事項について
5. システム WAKABA に関する業務説明
6. 質疑応答
7. 全体会閉会

【部会】

8. コース別・プログラム別部会開会
9. 業務概要説明
10. 意見交換
11. コース別・プログラム別部会閉会

【スタジオ体験】

12. スタジオ体験開始
13. テレビ収録、ラジオ収録の流れ等説明
14. スタジオ収録体験
15. スタジオ体験終了



主任講師会議

FD (Faculty Development) の取組み

Faculty Development (FD) の一環として、2011年10月27日及び2012年3月21日に講演会を開催した。

三輪眞木子教授からは、米国メリーランド大学ユニバシティ・カレッジにおける新任教員訓練プログラム、継続的FDプログラム、優秀な教員のプロモーション、査定サービスと情報源、教員の評価システムなどの取組についての報告があった。

大橋理枝准教授からは、イギリス公開大学における授業と放送大学の授業との比較の説明があり、イギリス公開大学における授業方法が応用できるかの可能性について検討材料が提案された。

川淵明美准教授からは、経験豊かな教員へテレビによる授業番組制作の工夫やポイントなどをインタビューした内容についての中間報告があった。

講演の後、参加者との活発な論議が展開された。

このほかにFDセミナー及びFDランチョンセミナーを開催した。

例えば2010年度から、本学学生にパソコンの操作方を教授することを目的に、全国の学習センターにて、面接授業「初歩からのパソコン」を実施した担当講師が、授業実施後にその内容、印象、改善点などを報告して、授業改善に役立てている。また放送授業番組の質的な向上を目指して番組制作担当者を講師として勉強会を開催、放送授業の今後の在り方等について活発な意見交換が行われた。今後もこのようなFDを継続して、教育の質の向上を目指していくこととしている。

以下に、開催したFD講演会、FDセミナー、FDランチョンセミナーのテーマ等を示した。

【FD講演会】

10月27日(木) 12:10~13:15

- ① 三輪 眞木子 教授 (ICT活用・遠隔教育センター 国際連携部門)
講演テーマ：「米国メリーランド大学ユニバシティ・カレッジにおけるFDの取組み」
- ② 大橋 理枝 准教授 (教養学部 人間と文化コース)
講演テーマ：「イギリス公開大学の教材作成及びその放送大学への応用可能性」

2012年3月21日(水) 16:00~17:00

- 川淵明美 准教授・高橋 秀明 准教授 (ICT活用・遠隔教育センター)
講演テーマ：「授業番組制作についての教員インタビュー結果」

【FDセミナー】

3月30日(水) 15:00~17:00

- 講師：濱田嘉昭、三輪眞木子、青木久美子
講演テーマ：PRIMEスタジオによる授業番組制作「科学的探求の方法(11)」

4月12日(火) 10:00~12:00

- 講師：三輪眞木子、秋光淳生、高橋秀明、広瀬洋子、仁科エミ、川淵明美、柳沼良知、芝崎順司
講演テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」授業方法

6月14日(火) 16:00~18:00

- 講師：高比良一道
講演テーマ：撮影セミナー「講師自らが撮影する場合！」

7月6日(水) 13:30~15:30

- 講師：渡邊 優
講演テーマ：放送授業で分かりやすく話すための勉強会

9月30日(金) 10:00~12:00

- 講師：三輪眞木子、秋光淳生、高橋秀明、広瀬洋子、仁科エミ、川淵明美、柳沼良知
講演テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」テキスト改訂

2012年2月21日(火)

- 講師：高比良一道、黒須正明
講演テーマ：「効果的なPPTを作る」、「PPTで納得させる」

2012年2月23日(木)

- 講師：鉢木 誠、池 恩燮
講演テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」実践報告

【FDランチョンセミナー】

2月8日(火) 11:30~13:00

- 報告者：加藤 浩、黒須正明、山田恒夫、芝崎順司、辻靖彦、高橋秀明
テーマ：面接授業「初歩からのパソコン」実践報告



ICT活用・遠隔教育センター(CODE)の活動

CODEはeラーニングや教育コンテンツなどの新しい学びを創造し、放送大学のICT化を推進している。



ICT活用・遠隔教育センター (CODE) のホームページ

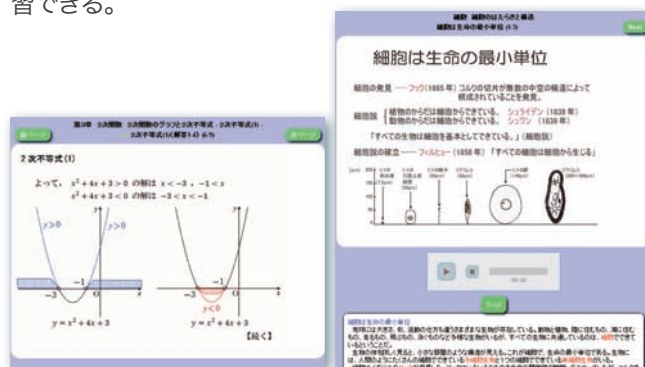
「UPO-NET for 放送大学」を提供中

UPO-NETは、インターネットで大学等にeラーニング教材を提供している。放送大学で作成・配信している基礎教育、初年次教育、入学前教育、キャリア教育など35のeラーニング教材は、多くの学生に利用されている。

「UPO-NET for 放送大学」では、放送大学への学習支援、および学生サービスの一環としてこれらの教材の提供を行っている。放送大学の学生は、大学の授業の他に、これを使って得意な分野を繰り返し学習でき、自学自習に活用できる。本年度は約15,000名の学生が登録・利用している。

- ・ 数学・物理・化学・生物では中学および高校で学ぶ内容
- ・ 英語は中学・高校からTOEIC受験まで。
- ・ 日本語・社会常識・就職のために必要な知識やスキル・ICT関連技術。

放送大学の単位互換校や連携協力校における利用を想定した放送授業の補助教材、および看護師国家試験を受験する方の対策となるようなeラーニング教材を開発し、現在試験配信中。教材の一部は携帯電話やiPad、iPhoneで学習できる。



リメディアル数学 解説

リメディアル生物 解説

オンラインジャーナルの公開

ICT活用・遠隔教育センターでは、Webによるオンラインジャーナル研究報告書の公開を積極的に行っている。

●「メディア教育研究」

多様なメディアを利用して行う教育、eラーニングなどICTを活用した教育に関する研究開発成果を掲載する査読付き学術誌。特集テーマに関する招待論文と、内外から投稿された原著論文、展望論文、研究資料、報告を掲載している。

2011年度「メディア教育研究」第8巻 第1号

<http://www.code.ouj.ac.jp/media/vol8no1>

特集「高等教育の国際化—アジアと日本」

ゲストエディタ: 二宮 皓 (放送大学副学長)

アジアの高等教育における国際化の動静を、日本を意識しながら分析し、アジアとの大学間交流のあり方、日本

の大学の国際化の新たな方向性を探る特集号となった。この領域における日本のトップ研究者たちの優れた論文が集まり、多くの関心を集めた。

●「研究成果報告書」

平成21年度・22年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業「ICT活用教育の推進に関する調査研究」成果報告書

ICTを活用した大学の在り方と教育の質保証について、世界的な規模で調査した。現地調査、当該国の専門家との緊密な連携に加えて大規模なアンケート調査を実施した。今後の日本の高等教育の在り方を方向づける上で重要な研究である。

大学教員向け ICT の教育活用

FDプロジェクトでは、大学教員のICT活用能力向上のために、年間を通して様々なFDセミナーを企画し学内外を問わず、多くの教員や関係者の関心を集めている。その成果はオンデマンドのガイドブックやビデオチップスとして、CODEのサイトから配信されている。

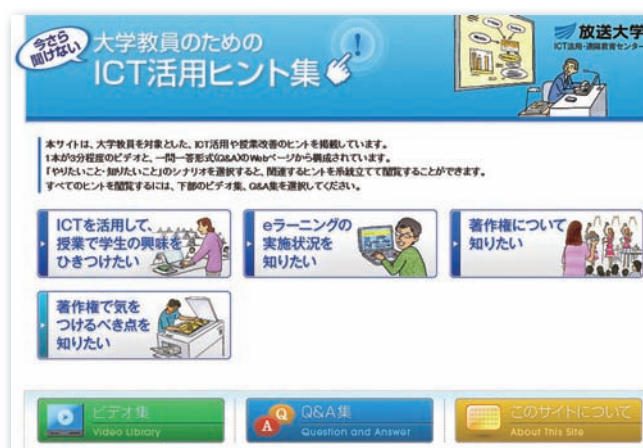
<http://fd.code.ouj.ac.jp/tips/>

●「ICT活用教育導入ガイドブック」

日本の大学のeラーニングやICT活用教育を促進させるために、eラーニングの動向やその効果、ICTの活用方法等に関して、大学の教職員が抱く疑問をQ&Aの形で掲載している。具体的な方法や最新の知見を知る事ができる。

●「授業改善のためのティーチング・チップス」

ICT活用・遠隔教育センターのサイトに、大学教員を対象とした授業改善のヒント集を掲載している。ICTを利用した授業の進め方や、想定される課題への対処法について、ビデオによる説明とQ&A集が関連づけて利用できるようになっている。



「ICT活用ヒント集」のトップ画面

ICT活用教育推進人材育成支援セミナーを実施

大学の教職員を対象に、ICTを活用して、学習効果の高いコンテンツを作成する方法や、著作権に関する知識などを習得するためのセミナーを各地で実施した。また、各大学が個別に実施している各種人材育成セミナーについて、講師を派遣するなどの支援を行った。

- ・放送大学が実施したセミナー
インストラクショナルデザイン (3件)
教育著作権 (9件)
ICT活用 (2件)
- ・大学等の要請に基づくセミナーの講師派遣
ラーニングデザイン (2件)
教育著作権 (10件)
ICT活用 (2件)



ミクストリアリティによる展示解説システムの研究

博物館は実物に接することができる格好の学習環境である。しかし、博物館で見学するだけでは、なかなか学習につながらない。たとえば古生物について詳しくない人が、いくら恐竜の骨格を見てもその違いを知ることは難しいのではないだろうか。本研究では、ミクストリアリティという現実空間と3DCGを融合する技術を使って、新しい展示解説シ



スミソニアン国立自然史博物館での展示実験（2011年3月）

テムを開発している。図鑑や映像による解説とは異なり、実際の骨格上で解説されるため体感的に学習できる。写真は恐竜の骨格構造を解説するコンテンツである。この体験が標本を見て学習できるきっかけになることを目指している。2011年3月にはスミソニアン国立自然史博物館で実験を行った。



恐竜の骨盤の構造を学習するミクストリアリティコンテンツ

大学における障がい者支援サイト

障がい者をはじめ多様な学生への支援は、新しい教授法やコミュニケーションのあり方を見直す契機となり、一般の学生にとっては、学ぶことの意味や価値、人間の限りない可能性を発見するまたとない機会となる。障がい者支援の研究開発から、ICTを活用した放送大学のしなやかな学びの方法が創造される。

支援に関する専門家の講演アーカイブや放送大学の岡部学長のTV授業を字幕付き映像として、オンデマンドで視聴できる。

<http://www.code.ouj.ac.jp/disable/>

●放送大学のホームページトップ画面に「視覚障がい者向け」特設サイトを構築

視覚障がい者は通常「パソコンの読み上げソフト」を利用してインターネットを閲覧するが、HPが読みにくい場合も多い。放送大学の視覚障がい者を12年間支援してき

たボランティア組織「菜の花の会」（代表：杉山和子）の協力を得て、パソコンの読み上げソフトで読みやすいサイトを開発した。学務部学生課「障がい学生支援グループ」と連携して2011年12月に放送大学のホームページトップ画面に「視覚障がい者向け」リンクを構築し、試験や授業の時間割、点訳済み科目テキストのリスト、出願方法など、大学生活に欠かせない重要な情報を随時閲覧することが可能となった。

http://www.ouj.ac.jp/hp/barrier_free/



放送大学ホームページのトップ画面

■ 学習センターの活動、この1年

■ 入学者の集い

4月と10月に、各学習センターで「入学者の集い」を開催した。全国で年間合計55,495名の学部学生と大学院生が入学し、放送大学における学びへの第1歩をふみだした。



千葉学習センター



京都学習センター



文京学習センター

■ 名誉学生の表彰

2010年4月に、放送大学の5コース（旧：6専攻）すべてを卒業した学生に対して、本学において多年にわたって修学を継続した意欲的な学習者として顕彰するとともに、本学学生の学習意欲の向上を図ることを目的として『放送大学名誉学生』という制度を設立した。

2010年度は、15名が名誉学生となった。名誉学生になった学生は3月の学位記授与式で学生表彰されるが、2010

年度の学位記授与式（2011年3月）が震災の影響で中止となったため、各学習センターを通じて表彰を行った。なお、名誉学生には、本学を卒業した後も、学習センターの各種施設を利用することができるなど各種特典を付与している。

なお、2011年度の表彰より、5コース（旧：6専攻）すべてを卒業したことに加え、人物、学習態度が良好であることが要件となっている。



千葉学習センター 上月 皎さん



北海道学習センター 小淵 修子さん

■ 新任の学習センター所長

2011年度は9の学習センターで新たに学習センター所長が就任して、学習センターのさらなる充実と発展のための活動に取り組んでいる。

■ 新任の学習センター所長一覧

茨城学習センター	白石 昌武（しらいし まさたけ）	大阪学習センター	林 正則（はやし まさのり）
埼玉学習センター	菅野 峰明（かんの みねあき）	広島学習センター	安原 義仁（やすはら よしひと）
東京多摩学習センター	田崎 宣義（たさき のぶよし）	愛媛学習センター	森 孝明（もり たかあき）
富山学習センター	服部 征雄（はっとり まさお）	鹿児島学習センター	中山 右尚（なかやま ゆうしょう）
三重学習センター	上野 達彦（うえの たつひこ）		

■ 開設15周年・20周年記念式典

宮城、石川、岐阜、大阪、香川および長崎の学習センターは、開設20周年、秋田、滋賀、奈良、島根および宮崎学習センターは開設15周年を迎え、記念式典を開催した。様々

な事業や講演会等を通じ、参加者がふれ合い、学習センターの節目を祝った。



岡部学長による記念講演（長崎学習センター、奈良学習センター）



開設20周年記念式典（岐阜学習センター）



記念事業として開催された展示会（島根学習センター）

■ 学習センターの移転と閉所

山口学習センターは、山口東京理科大学（小野田市）から山口大学大学会館内（山口市）へ移転した。また、東京では、2011年9月東京文京学習センターが移転先の浮間船渡から、旧来の場所である茗荷谷に建設された新校舎に移転した。東京世田谷学習センターは2011年度で閉所され、2012年4月渋谷に新たな学習センターが開所される。それぞれ、従来よりも交通アクセスがよいところになり、学習環境の充実につながると期待される。

- 山口学習センター
(2011年4月 山口東京理科大学▶山口大学大学会館内)
- 東京文京学習センター
(2011年9月 浮間船渡▶茗荷谷)
- 東京世田谷学習センター
(2012年3月 閉所)



山口学習センター



東京文京学習センター



閉所となる東京世田谷学習センター

地域に根ざした教育

面接授業

本年度も、多彩な面接授業が各学習センターで開講された。いろいろな学問分野の基礎だけではなく、地域に根ざす様々なテーマに関する授業が、放送大学教員に加えて、各界で活躍する講師が担当して開講され、多数の学生が受講した。

- 熊本学習センター
「ハーンと漱石の遺産を訪ねて」
「熊本の考古学から迫る原始社会」
- 和歌山学習センター
「梅学入門」



熊本学習センター面接授業



熊本学習センター面接授業



和歌山学習センター面接授業

セミナー

岩手学習センターでは、地域防災工学が専門の齋藤徳美所長により、地震や津波に関連した緊急特別セミナー「平成の大津波災害と復興への課題」が開催され、定員を超える100名近くの参加者があった。

- 岩手学習センター
特別セミナー「平成の大津波災害と復興への課題」



岩手学習センター特別セミナー

集いの場としての学習センター

研修旅行

放送大学において、学生が集う場である学習センターでは、学生が勉学活動に利用するだけでなく、サークル活動や様々な共通関心事に関して、学生の交流活動が活発に行われている。

- 岐阜学習センター
(越前和紙紙漉き体験と一乗谷朝倉氏遺跡)



岐阜学習センター研修旅行

サークル・学生活動

- 高知学習センター (室戸貫歩)
- 鹿児島学習センター (ヨガサークル)



高知学習センター (室戸貫歩)



鹿児島学習センター (ヨガサークル)

文化祭

学習センターでは、文化祭を開催し、学生の学習成果やサークル活動の成果を発表、披露している。文化祭は学生同士の交流の場であると同時に、教職員、そして地域の人々も参加し、交流を深める機会となっている。

- 千葉学習センター (秋祭り)
- 岐阜学習センター (学生作品展)
- 高知学習センター (芸術文化祭)



千葉学習センター (秋祭り)



岐阜学習センター (学生作品展)



高知学習センター (芸術文化祭)

地域と密着する学習センター

公開講演会・公開講座

学習センターでは、誰でも参加できる公開講演会、公開講座、シンポジウム等を多数開催している。放送大学学生にかぎらず、地域の人々に役立つ様々な話題について最新の知識が得られ、また共に考える機会を提供してい

る。講師は、放送大学関係者に加えて、それぞれの地域や分野で活躍する多彩な方々をお招きしている。以下は本年度開催されたもののほんの一例である。

■ 公開講演会・公開講座の例

学習センター	演 題	講 師
北海道学習センター	まちそだて「あばしり」 ～トライアルの精神が地域を拓く～	北海道学習センター所長 筑和 正格
青森学習センター	「はやぶさ」がめざした独創への挑戦と、 次の世代へのメッセージ	宇宙航空研究機構教授 川口 淳一郎
秋田学習センター	ジオパーク紀行	秋田大学名誉教授 男鹿の自然と文化の会代表 白石 建雄 夏井 興一
茨城学習センター	生活質の向上を目指すライフサポートサイエンス	茨城学習センター所長 白石 昌武
埼玉学習センター	世界からみる日本の教育	放送大学副学長 二宮 皓
千葉学習センター	映画作りの楽しみ	脚本家・映画監督 黒土 三男
東京世田谷学習センター	200年をくぐりぬけた21世紀中国のゆくえ	放送大学教授 西村 成雄
富山学習センター	伝統医学への招待 ―古きを知り新しきを拓く―	富山学習センター所長 服部 征雄
石川学習センター	情報と教育	放送大学長 岡部 洋一
福井学習センター	家族とは何だろう	放送大学教授 福井大学副学長 福井学准教授 宮本 みち子 桜井 康宏 羽田野 慶子
岐阜学習センター	財政破綻は回避できるか? 一国の借金を考える	放送大学前学長 石 弘光
静岡学習センター	家康・信玄と三方ヶ原の合戦	静岡学習センター所長 本多 隆成
三重学習センター	裁判員制度はうまくいっているか	三重学習センター所長 上野 達彦
大阪学習センター	ゲーテに聴く	大阪学習センター所長 林 正則
兵庫学習センター	南蛮美術と神戸 ―収集家池長孟とその社会活動―	放送大学教授 杉森 哲也
岡山学習センター	原子力発電の科学	岡山学習センター所長 齋藤 清機
高知学習センター	世界一受けたい授業 「岩崎弥太郎と近現代・土佐の偉人伝」	歴史研究家、高校教諭 河合 敦
福岡学習センター	東日本大震災から学ぶべきこと ―地震動・津波・防災対策・原発事故などについて―	九州大学大学院・ 工学研究院教授 大塚 久哲
佐賀学習センター	実践型農業マーケティングを語る	マーケティングプロデューサー 平岡 豊
鹿児島学習センター	江戸時代の子どもの絵本と現代	鹿児島学習センター所長 中山 右尚



青森学習センター公開講演会ポスター



高知学習センター公開講演会ポスター



秋田学習センター公開講座



青森学習センター公開講演会



京都学習センター公開講座

シンポジウム

沖縄学習センターでは、八重山地域の発展動向をテーマに、九州・沖縄ブロックの合同面接授業および合同シンポジウムを、石垣市市民会館（大濱信泉記念館）にて開催した。学生・市民など150人に達する参加者があった。テレビ会議システムにより、北海道、福岡の学習センター、および放送大学本部の四元中継を行い、遠隔地の学生も参加した画期的な催しとなった。

放送大学 九州・沖縄ブロック 合同シンポジウム	～東アジアのクロスロード 八重山の挑戦と展望～	岡部 洋一（放送大学長） 【パネリスト】 平松 茂雄（元・杏林大学教授） 宮城 弘岩（アジア・沖縄経済研究所代表） 大浜 一郎（八重山経済人会議代表幹事） 中山 義隆（石垣市長）
-------------------------------	----------------------------	--

九州・沖縄ブロック
合同シンポジウム
チラシ



地域貢献

多くの学習センターでは、地域貢献の一環として、いろいろなレベルで、地域を巡回する教育講座、地域の学校への出前授業等を積極的に実施している。



滋賀学習センター地域巡回教育講座

- 滋賀学習センター（地域巡回教育講座）
- 島根学習センター（小学校での出前授業）



島根学習センター出前授業

オープンキャンパス

学習センターでは、オープンキャンパスを開催し、地域の人々との交流につとめている。たとえば、宮崎学習センターの夏祭りオープンキャンパスでは、老若男女100名を超える来場者があり、盛況のうちに交流を深めた。

- 宮崎学習センター
（夏祭りオープンキャンパス）



宮崎学習センター夏祭り

卒業生とのつながり

放送大学には2011年現在、46の同窓会が設立されており、会誌を発行、親睦旅行、講演会開催など、卒業生どうしの交流を行っている。また、例年、学位授与式後の卒業・修了祝賀会の企画・運営を行うなど、学習センターの行事に協力している。卒業生が再入学する率の高い放

送大学において、同窓会は学生と大学をつなぐ太いパイプ役を果たしている。

- 高知学習センター（同窓会室）
- 文京学習センター（卒業生のための特別講演会&懇親会）



高知学習センター同窓会室



東京文京学習センター卒業生の集い

放送大学の新たな動き

放送大学附属図書館所蔵コレクション図録

附属図書館では、2011年3月に「放送大学附属図書館所蔵コレクション図録」を発行した。

図録には、附属図書館が所蔵する貴重書の中から、特色ある資料80点余りが収録されている。

コレクションには、西洋の日本観をテーマとして、アジア・日本への探検記や旅行記などの著作や、古写真やちりめん本など幕末から明治に日本から西洋に発信された日本に関する多くの資料があげられ、また、ニュートンの「プリンキピア」やシーボルトの「日本」等の資料も所蔵している。

これらの資料は、研究に資するだけでなく、本学の放送教材や印刷教材に活用されて

いる。また、1996年から全国各地でコレクション展を開催し、古写真やちりめん本など貴重な資料の公開を行っている。

本図録により、本学の所蔵する貴重な資料の学内外での一層の活用を図るものである。



図録表紙



図録本文

放送大学第3回学生エッセイコンテスト

放送大学第3回学生エッセイコンテストの受賞作品が2011年2月に決定した。「放送大学から広がる世界」というテーマの募集に対し84点の応募があり、選考委員会において厳正な審査を行った結果、11点の優秀作品を選んだ。

応募者の年齢は23歳から77歳と幅広く、所属する学

習センターも全国15センターにわたっていた。応募作品はいずれも素晴らしい作品であった。

第4回エッセイコンテストの募集は2011年7月1日から10月16日にかけて実施され、37点の応募があった。12月から選考が始まり、2012年2月に最終結果発表の予定である。

■ 第3回 受賞者の一覧表

賞	受賞者	作品名	学習センター
最優秀	岡本 安司	知識でなく、心の広がり	大 阪
優 秀	坂本 ひろみ	自ら世界を広げる力	鹿児島
	西村 将司	思わぬ3つの重荷	京 都
佳 作	水谷 啓子	無縁社会に挑戦！バーチャル家族	愛 知
	石川 のぞみ	学ばってエキサイティング	埼 玉
	大石 寿子	開けゴマ！	栃 木
	佐藤 美紀子	放送大学から広がる世界	岩 手
	高浦 容子	放送大学から広がる世界	千 葉
	高木 順一	きっかけはボウリング大会	愛 知
	立花 宏治	遥かなる旅	京 都
	山光 さゆり	出会いは人生を彩る神様	福 山

※各賞毎の氏名は50音順 ※所属学習センターは応募時のもの

BSデジタル放送の開局

放送大学学園では、2011年10月よりBSデジタル放送を開始した。チャンネル番号はテレビが231ch～233ch、ラジオが531chとなっている。

BSデジタル放送は、関東地域の一部で実施している地上デジタル放送と同様にハイビジョンレベルの高画質の映像の提供や同時に3番組を放送するマルチ放送による番組提供、データ放送による学習センター情報等の提供が全国エリアで可能となるなど、学習環境が一層向上された。

BSデジタル放送の一般的な視聴方法は、地上デジタル放送が受信可能なテレビの多くはBSチューナーも内蔵されているため、BSデジタル放送受信用のパラボラアンテナを接続すれば視聴することが可能である。

なお、CS放送(スカパー!SD)については2012年3月末をもって終了となる。

開局当日の10月1日にはBSデジタル放送開始を記念して、放送を視聴している学生のみならず、全国の一般視聴者に放送大学を知っていただくよう特別番組が放送された。

特別番組のラインナップは「もう一度見たい名講義～放

送大学アーカイブス～」 「学ぶ仲間たち」 「語り合おう!放送大学」など。

「もう一度見たい名講義～放送大学アーカイブス～」は小沢昭一氏や西部邁氏などによる過去の名講義の名場面を紹介した。

「学ぶ仲間たち」は地震や津波の被災に遭われたにもかかわらず学びへの情熱を持ち続けている学生を含めて、様々な環境で学ぶ全国各地の学生を紹介した。

「語り合おう!放送大学」は20代～80代の放送大学で学ぶ学生たちと、岡部学長、白井理事長、そして放送大学で学んでこられた林文子横浜市長が一堂に会したシンポジウムの模様を放送した。「生涯にわたって学び続けるすばらしさ」や「これからの放送大学」について熱心な意見の交換をした。



BS放送開局記者会見



「語り合おう!放送大学」

東京文京学習センター新校舎の完成

2011年9月東京文京学習センターの新校舎がオープンした。

地下鉄メトロ丸の内線「茗荷谷駅」から徒歩3分という大変交通の便の良い所に立地し、筑波大学との合築による建物で地上6階、地階の7層からなり、建物の中央には中庭を配し、採光にも十分配慮しゆったり落ち着いた空間になっており、放送大学は地階・2階・3階をメインに使用する。

様々な講演会や入学式にも利用できる大講義室の他大規模な図書室があり。ゼミ室、放送教材の再視聴と学習ができる視聴学習室。学生ラウンジは学生同士のコミュニケーションや授業の合間の休息の場として開放感溢れる空



東京文京学習センター外観

間になっている。

面接授業も倍増し、更にバラエティ豊かな授業を受けることが出来るようになり。2学期からは面接授業科目が80科目から180科目(年間300科目程度)に増え様々

な分野の授業を受けることが出来る、放送授業では体験できないような、物理、化学、生物等の実験科目も新たに加え学友と共に学ぶ楽しさを共有することができる。



学生ホール

初めての“都市型キャンパス”の誕生(東京渋谷学習センター)

2012年4月、文化・ファッション・ITなど、さまざまなカルチャーが躍動する渋谷に、放送大学では初めての“都市型キャンパス”として新しい施設を設置する予定である。

渋谷駅から徒歩5分圏という「近くて、便利なキャンパス」をコンセプトに、学位取得・キャリアアップ・自己実現など様々な目的を持って学ぶ学生にとって、東京渋谷学習センターは新たな情



東京渋谷学習センター

報発信源となる。

また、これから学生になる方にも積極的に放送大学を知っていただくランドマークとして、全国から大勢の方々が訪れ利用されることが期待される。

基本的な機能は、これまでの学習センター同様に放送授業の再視聴・面接授業・履修相談等を行い、早朝や夜間の面接授業や、ビジネスパーソン向けの新しい企画など、様々な試みを行っていき、新たな生涯学習の拠点として期待が高まっている。

データで見る放送大学の概要

教職員数

[単位：人]

役 員	7	※1
学 長	1	
副 学 長	3	※2
教 員	86	
事務職員	247	
合 計	342	※3

(2011年度)

※1 学長（理事）、副学長（理事）を含む

※2 副学長（理事）を含む

※3 重複があるため合計は一致しない

在学生数

[単位：人]

教養学部	
学生の種別等	在学生
全科履修生	51,300
選科履修生	17,070
科目履修生	8,636
特別聴講学生※	3,762
合 計	80,768

(2011年度第2学期)

大 学 院	
学生の種別等	在学生
修士全科生	1,136
修士選科生	3,540
修士科目生	875
合 計	5,551

(2011年度第2学期)

集中科目履修生	
学生の種別等	在学生
学校図書館司書教諭講習	906
看護師資格取得に資する科目	415
合 計	1,321

(2011年度)

※特別聴講学生とは、他の大学等の学生で当該大学等と放送大学との単位互換協定に基づき、本学において科目の履修を行っている学生です。

入学者数

[単位：人]

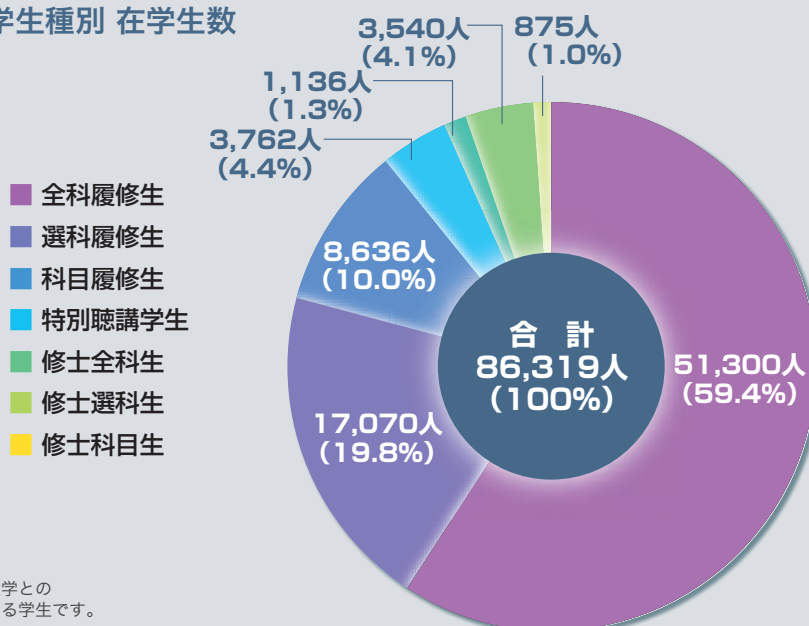
教養学部			
学生の種別等	1学期	2学期	合 計
全科履修生	7,739	4,159	11,898
選科履修生	11,241	5,779	17,020
科目履修生	7,350	8,636	15,986
特別聴講学生	1,360	3,762	5,122
合 計	27,690	22,336	50,026

(2011年度)

大 学 院			
学生の種別等	1学期	2学期	合 計
修士全科生	403	—	403
修士選科生	2,543	982	3,525
修士科目生	666	875	1,541
合 計	3,612	1,857	5,469

(2011年度)

学生種別 在学生数



単位互換協定締結校数 [単位：校]

学校の種別	校数
大 学	264
短 大	90
高 専	11
大 学 院	6
合 計	371

(2012年2月現在)

学部卒業者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
1,661	2,883	4,544	70,265

(2011年度)

大学院修了者数

[単位：人]

1学期	2学期	合計	累計
9	371	380	3,544

(2011年度)



〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
TEL:043-276-5111(総合受付)
<http://www.ouj.ac.jp/>